

最上の子どもたちのために
未来へ



- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和7年 6月2日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第3号

最上地区いじめ不登校未然防止協議会 令和7年5月8日(木)

最上教育事務所では、今年度も生徒指導の更なる充実と教職員の指導力向上を目指し、年間2回のいじめ不登校未然防止協議会を開催します。

第1回は、講師に高橋典久氏(岡山県教育庁人権教育・生徒指導課課長)をお招きし、学習指導と生徒指導の一体的充実の視点から、魅力ある学校づくりの推進についてお話しいただきました。また、演習では、児童生徒の声に基づいて各学校の取組みをブラッシュアップする方法として、「RV-PDCA」を体験いただき、参加者同士が活発に意見交流を行いながら、魅力ある学校づくりについての理解を深めることができました。

授業に内在化した生徒指導の実践上の4つの視点のポイント

- 自己存在感の感受への配慮**
➡ 集団に個が埋没しないよう、一人ひとりを大切にしたい支援
- 共感的な人間関係の育成**
➡ 支持的・包括的な人間関係を基盤とした集団づくり
- 自己決定の場の提供**
➡ 子どもが主体となって取り組みたいような仕掛け・工夫
- 安全・安心な風土の醸成**
➡ 安心して生活できるような環境やあたたかい人間関係づくり

意識調査を使ったRV-PDCAの手順

① 「こどもの意識調査」から課題を抽出し、「**展望**」をもつ
Point 「当てはまる(強肯定)」の数値のみ着目
学校教育目標
目指す生徒像
などから重点化も

② 課題改善のための「**手立て**」を考える
③ 手立て実行後の検証のための「**見積み値**」を立てる
Point 目標数値の設定が先ではなく、手立ての立案から

④ 手立ての実行
⑤ 「こどもの意識調査(結果)」を実施し、「**見積み値**」と「**結果**」のギャップを検討する

ギャップが少ない・結果が上回る
②で立案した「手立て」が実際にマッチ・徹底できた ➡ 継続・共有

結果が下回る
②で立案した「手立て」が実際にミスマッチ・徹底できなかった ➡ 手立ての改善

※講師資料から抜粋



日々の授業における手立てや工夫を、生徒指導の実践上の4つの視点に当てはめて振り返ることで、授業に内在化した生徒指導の見方に気づき、授業の中で発達支持的生徒指導を実践していくことが大切です。
(高橋先生のお話より)



講師 高橋 典久 氏

参加者の感想



- ・データの見方や子どもの意識調査に基づく「見積み値」の立て方など、これまでの生徒指導に対する見方が180度変わりました。
- ・授業に内在化した生徒指導という見方を校内で共有し、全教員が同じ方向を向いて、日々の授業を見つめ直していくことが大切だと感じました。
- ・日頃の学校における授業と生徒指導の結びつきについて、改めて考え直す機会となり感謝しています。

令和7年度 第2回最上地区いじめ不登校未然防止協議会について

○日時：令和7年9月3日(水) 14時～ ○会場：最上総合支庁 講堂

○テーマ：「これからの不登校支援」 ※不登校児童生徒の自立支援ネットワーク会議と共同開催予定

2年次・3年次フォローアップ研修 令和7年5月13日(火)・20日(火)

今年度の2年次・3年次フォローアップ研修は、それぞれ「特別の教科 道徳」についての課題研究を行います。第1回目の研修では、道徳についての講義と、研修者が持参した各校の経営計画に記載されている道徳の重点項目や道徳の年間計画等を参照しながら、教材研究や授業づくりを行いました。第2回目の研修では、それぞれが実践等を持ち寄って、道徳についての研鑽を積んでいく予定です。



☆2年次フォローアップ研修① 受講者のリフレクションより

講義中の「同じ教材でも、問題をどう捉え、どのようなねらいを設定するかで授業は大きく変わる」という話から、改めて実態把握とそれをもとにした授業づくりの重要性を実感した。

★3年次フォローアップ研修① 受講者のリフレクションより

教員の進め方一つで価値観の押し付けになってしまうこともある。児童の意見が分かれるような、ゆさぶる発問を毎時間一つ用意し、なぜそう思うかを児童に問い返していきたい。



M-T E P C: チーム研修型 第1回研修会 令和7年5月22日(木)

年度初めに、「確かな学力育成支援(M-T E P) C: チーム研修型」を開催することをお知らせし、研修参加メンバーを募集しました。今年度は、下記のメンバーで「小学校算数」、「中学校数学」の部会を開催することになりました。今後、各部会で指導案検討会を重ね、公開授業に向けてチームで授業づくりを進めていきます。

チーム算数

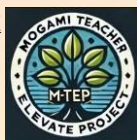


研究単元 6年: 並べ方と組み合わせ方

わかった!できた!を実感できる授業

必要感のある課題

思考に寄り添う



じっくりと考える

「できそう」と思い試行錯誤する

考えることを誰もが楽しめる授業

研究単元 3年: 相似な図形

チーム数学



姉崎壮一郎 教諭(新庄小)

曾野部伸弥 教諭(日新小)

八田 直 教諭(日新中)

小屋 彩香 教諭(萩野学園)

吉浦 恭介 教諭(真室川小)

高橋 恒 教諭(戸沢学園)

五十嵐一暁 教諭(最上中)

研修会の様子

研修会のねらい

- 子どもが学びを実感する「わかる授業」づくりと指導と評価の一体化による授業改善、検証を通して児童生徒の確かな学力の育成を目指す
- 小規模の学校が多くなっている最上地区の教員が、学校の枠を超えて協働して授業づくりを行うことを通して、授業の実践的指導力の向上を図る



「Plant」あるある Q&A①

Q: Plantで申し込みをしたのに「承認中」と表示されています。どうすれば「受講決定」になりますか?

A: Plantにて申し込みを行った後に、管理職にその旨を伝えてください。学校にて承認されると研修主催者より承認され「受講決定」となります。